

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	スーパー・ライジング	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.480	△RG	0.057	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：スーパー・ライジング

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ
- 研磨剤

番

比較対照ボール：ライジング

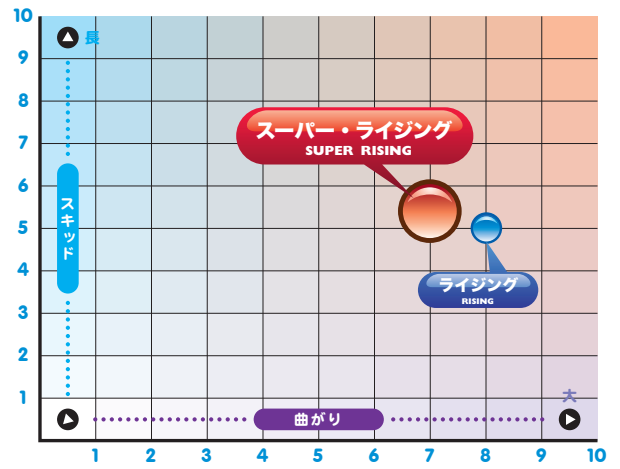
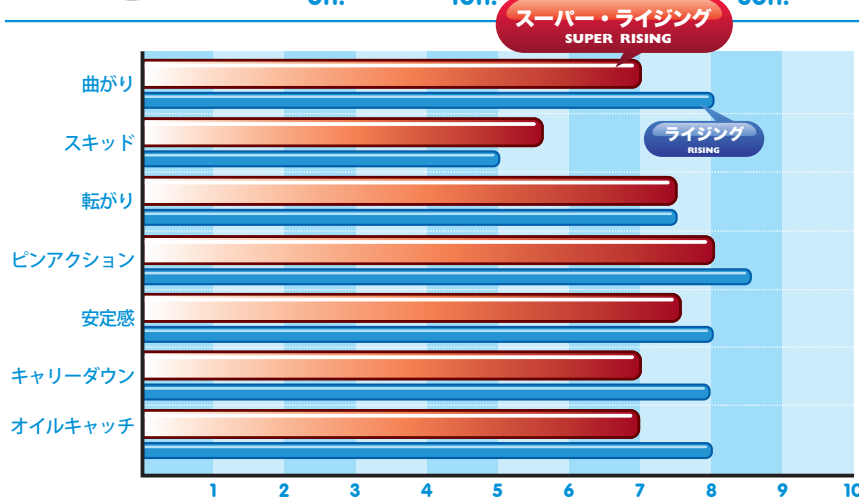
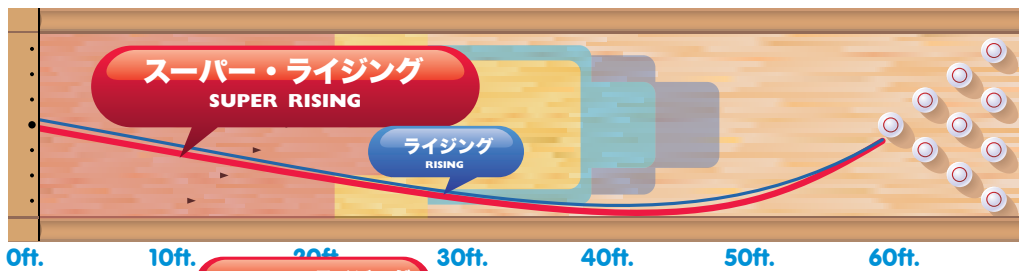
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ
- 研磨剤

番



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

第31回ABS JAPAN OPENで男女ともに優勝という鮮烈なデビューを果たした初代ライジング。超ヘビー級の7ポンドにも及ぶMega TronコアとHP Gen1リアクティブの組み合わせは緩やかにもしっかりと軸移動を完了し、安定感のあるパフォーマンスで一世を風靡致しました。

今回あえてライジングシリーズ復活の背景には、ABS独自の市場調査において未だに根強いライジングファンが多いこと。ならびにライジングで先の動きを求めていることが分かりました。ABS開発チームはライジングシリーズの要であるMega Tronコアを使い、数種類のカバーストックとコアの数値とのマッチングのテストを続けてきました。

そして今回スキッドレベルをライジングとUP ライジングの間に設定をし、転がりを重視した設計の扱いやすく、スキッドと先の切れを備えたRISINGをお客様のご要望に応え復活リリース致します。

このSUPER RISINGの開発における着目点はスキッドレベルと転がりの調整でありました。しっかりと転がりライジングのイメージを保ちながら先での動きを強調させる為には新しいカバーストックが必要であり、幾度となく作り直し、吟味を重ねたパフォーマンスはこのSUPER RISINGに集約されていると言っても過言ではありません。

初代ライジングを気に入って使用して頂いた方、またライジングで先での動きを強調させた性能を持ち望んでいた方、Mega Tronコア特有の安定感のある軸移動と先での切れ双方を感じさせる、新しいライジングのリアクションを試す日がきました。

特記事項

ライジングの良さである安定した軸移動と先での動き双方を兼ね備えたボール。良く転がり、先での動きは今までのライジングでは味わえなかったリアクションをお試しください。